

平成30年度 租税教育研究発表要項

名取市立高館小学校

教諭 大槻 裕史

1 研究主題

税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割への理解を深める指導の工夫
～社会科の学習として行う租税教育の実践を通して～

2 主題設定の理由

税に関する学習は、小学校学習指導要領社会編第6学年の指導内容「国や地方公共団体の政治の取組」の中で取り上げられている。具体的には、納税は国民の義務であり、税金が国や地方公共団体による対策や事業に使われ、国民生活の向上と安定のために重要な役割を果たしていることを理解できるようにするという内容である。

第6学年社会科の指導計画において、税に関する学習は、「子育て支援の願いを実現する政治」7時間扱いの中の「税金の働き」1時間扱いで取り扱う内容となっている。児童が税の意義や役割を深く理解するためには、十分な時数は確保されておらず、指導計画を見直す必要がある。しかし、一方では、新学習指導要領が実施される中で、税に関する学習の指導時数を社会科や他の教科で、大幅に増やすことはできないという現状もある。

そこで、本研究では、より少ない時数で効果的に社会科の学習の中で、租税教育を行うための指導の工夫を実践したいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

社会科の学習として行う租税教育の実践を通して、税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割への理解を深める指導を工夫する。

4 研究方法

(1) 税に対する実態調査を授業前と授業後の2回行い、児童の変容を考察する。

(2) 税に関する授業時数を最大10時間と設定し、授業実践を行う。

(3) 租税教室を行い、税の意義や役割について理解させる。

5 研究の流れ

(1) 社会科年間指導計画の見直しを行い、租税教育を指導計画の中に位置づける。

(2) 単元「子育て支援の願いを実現する」の「税金の働き」(1時間扱い)で税金が国や地方公共団体による対策や事業に使われていることを理解させる。

(3) 税に関する実態調査を行う。

(4) 税に関して調べさせ、ノートにまとめさせる。(家庭学習)

(5) 調べた内容を発表させ、税に関する理解を深めさせる。(1時間扱い)

(6) 発表会を聞いて、新たに生じた税に関する疑問をまとめさせる。(1時間扱い)

(7) 租税教室を行い、税に関する疑問を解決させる。(1時間扱い)

(8) 税に関する実態調査を行い、変容を考察する。

6 研究計画

平成30年 4月 社会科年間指導計画見直し

 12月 実践授業

平成31年 1月 実態調査, 実践授業

 2月 租税教室, 実態調査

 3月 研究のまとめ

7 研究の概要

(1) 児童の実態：事前調査（平成30年度 6年1組 14名 1月実施）

1 税金税にはどんな種類がありますか。知っている税の名前を書きましょう。

・消費税（13人） ・所得税（2人） ・関税（1人） ・出国税（1人）

2 税金は、どのようなことに使われていますか。

・建物を建てる（4人），
・国の施設（2人），消防の仕事（2人），警察の仕事（2人），公務員の給料（2人），
・国や県，公共の場，市町村のため，病院，学校，災害復興，地域のイベント，学校の机や椅子，国のため（政治や経済のため），道路や橋などの工事，市町村のため，電気代，水道代、わからない

3 税金は必要だと思いますか。そう思う理由も書きましょう。

（ はい 10名 どちらともいえない 4名 不要 0名 ）

（主な理由）

<必要> 税金がないと・・・

・国や県が困る。 ・建物が建たない。 ・国の収入が安定しない。
・子供の施設がなくなって、子供を預けることができなくなる。
・働いている人の給料がなくなる。 ・いろいろな仕事ができなくなる。

<どちらともいえない>

・みんなが使う場所のために使うなら必要だけど，最近，税金が高くて，なんとなく損した気分になるから。
・大事だけど少し高い。
・税金がないと住みづらくなるから必要。でも，消費税がないと物が安くなるから，どちらともいえない。
・物を買うときに値段が上がってしまうから税金はいらないと思うけど，国のために必要だから，どちらともいえない。

4 税金について、考えていること、感じていることを書きましょう。

- ・難しくて、よく分からない。(5人)
- ・何で10月から、消費税が8%から10%になるのだろうか。(2人)
- ・税金を高くしないでほしい。(2人)
- ・消費税を上げないでほしい。・消費税をなくして違うところから取ってほしい。
- ・消費税が10月から10%になるのが少し嫌。
- ・税金がどんどん増えていったら嫌。
- ・最近、どんどん物価や消費税が高くなっているため、人々の不安が高まっていると思う。
- ・税金は少し高いと思うけど、税金はみんなのためになるものだから、税金を払うとみんなのためになったんだと思う。

【実態調査の考察】

児童が知っている「税金の種類」としては、児童の身近な税金である「消費税」が最も多い結果となった。「所得税」，「関税」，「出国税」といった児童の生活とは関係の無い税金の種類も挙げられていた。

「税金の使われ方」に関しては、実態調査を行う前に、社会科で1単位時間の学習を終えていることから、児童は、税金は「公共のために使われていること」を、ある程度、理解しているようであった。

「税金の必要性」については、「10名が必要」，「4名がどちらともいえない」，「不要が0名」という結果であった。「必要な理由」としては、「税金がなくなると公共サービス・事業ができなくなる」というものであった。ここからも、児童は、「税金は公共のために使われていること」を、ある程度は理解していることが分かった。「どちらともいえない」理由としては、児童は、税金の必要性は感じているものの、税金（特に消費税）の高さが気になり、ジレンマを感じている結果となった。

「税金について考えていること、感じていること」の質問については、「難しくて分からない」という回答と、「消費税」に関する回答が大半を占めた。社会科の学習で、1単位時間学習しただけでは、税の意義や役割への理解を深めることは難しいこと、児童は身近な税金である消費税に関心があることが分かった。

(2) 指導計画

租税教育は、基の社会科指導計画「子育て支援の願いを実現する：7時間」に3時間を加えて、10時間扱いで計画する。

月	教科等	学習内容	時数
12月	社会	・単元「子育て支援の願いを実現する」の中で、「税金の働き（1時間扱い）」について学習する。	7 (1)
1月	家庭学習	「税金に関して調べよう」 ・税金に関して調べ、ノートにまとめる。	
	社会 第1時	「税金に関して調べたことを発表しよう」 ・調べた内容を発表し、税金に関する理解を深める。	1
	社会 第2時	「税金に関する疑問をまとめよう」 ・発表会を通して、新たに生じた税金に関する疑問をまとめ、税金に関する興味・関心を高める。	1
2月	社会 第3時	「租税教室で税金への理解を深めよう」 ・租税教室で、税金に関する疑問を解決する。	1

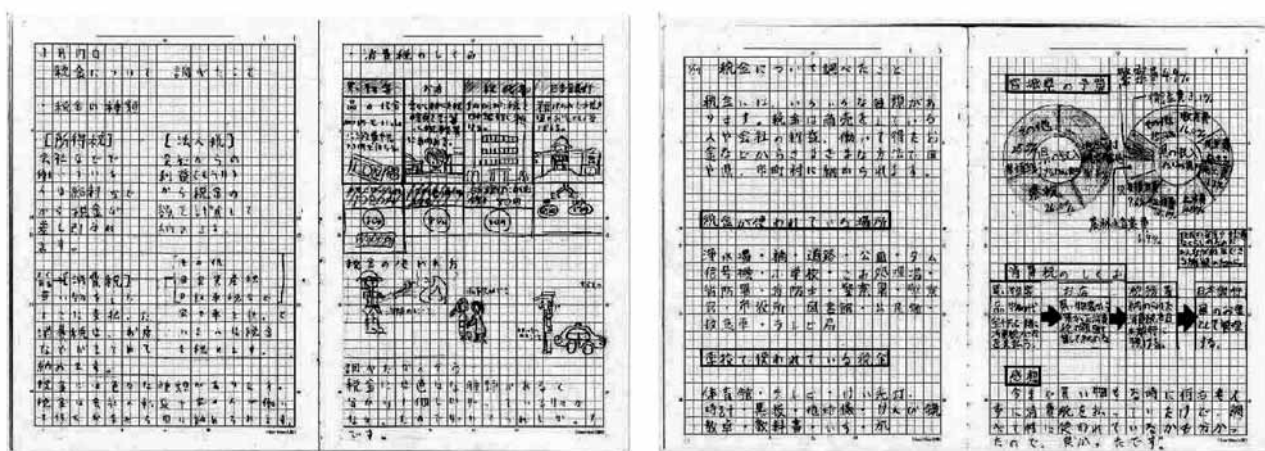
(3) 授業実践の概要

【家庭学習】「税金に関して調べよう」

12月に社会科の学習の「子育て支援の願いを実現する」の中で、「税金の働き」について学習したことを思い出させるとともに、2月に租税教室が行われることを予告して、家庭学習として、税金について調べさせ、ノート見開き2ページでまとめさせた。調べる資料としては、『わたしたちの暮らしと税金』を使用した。児童は、図表などを使うなど、自分なりの工夫をして、丁寧にノートにまとめることができた。児童が、調べた内容としては、

税金の種類、税金の使われ方、消費税の仕組みなどが多かった。

【第1時】「税金に関して調べたことを発表しよう」



①学習目標

- ・税金に関して調べてきたことをお互いに発表し合い、税金に関する理解を深める。

②授業の流れ

税金に関して、家庭学習で調べてきたことを発表し合い、学級全体で税金に関する知識を共有した。発表の内容としては、消費税に関する内容（国による税率の違い、消費税の税の仕組み）、税金の種類、税金の使われ方が多かった。

担任は、児童が発表した内容に関連づけながら、黒板にまとめていった。児童にも担任が板書した内容を整理しながら、ノートにまとめさせた。その際、児童に質疑応答させながら、お互いに教え合ったり、分かったこと、分からないこと、新たに生じた疑問について確認させたりして、税金に関する理解を深めさせるようにした。

次時に、今回の学習で生じた税金に関する疑問を整理していくことを伝えて授業を終了した。



【第2時】「税金に関する疑問をまとめよ」

①学習目標

- ・発表会を通して、新たに生じた税金に関する疑問をまとめ、税金に関する興味・関心を高める。

②授業の流れ

前時の学習を想起させ、前回の発表会で、税金に関してどんなことが分かったかを発表させた。

本時では、発表会を通して、新たに生じた税金に関する疑問をまとめることを確認した。前回の発表会で、自分が調べてきて、全体の中では、発表できなかった内容を、グループ内で発表し合うことを伝え、お互いに発表し合い、分からないことは教え合い、自分たちでは解決できない疑問を確認させるようにした。次に、グループ内では、解決できない疑問の中から、2つ選び、次回の租税教室で、講師の先生に質問して、疑問を解決することを告げ、グループ内で疑問を2つに絞らせた。その後、それぞれのグループで考えた質問を黒板に書かせ、学級全体でどのような質問が考えられたかを確認した。次時に、今回の学習でグループ毎に考えた質問を租税教室で解決することを告げ、授業を終了した。

児童からは、次のような質問が出された。

- ・日本の税金の種類は何種類くらいあるか。
- ・個人で仕事をしている人(商店などの個人事業主)の税金(所得税、消費税)はどうやって納めているのか。

- ・ どうして国によって，消費税が高かったり，低かったりするののか。
- ・ 消費税の税率が10%になるのは，どんな理由からか。これからも税率はあがるのか。
- ・ 消費税が下がることはないのか。

事前の実態調査や第1時の授業と同様に，消費税に関する質問が大半を占めたが，「納税の仕組み」や「税率が上がる理由」など，発展的な学習に繋がるような質問もあった。



【第3時】租税教室「租税教室で税金への理解を深めよう」

①学習目標

- ・ 租税教室で，税金に関する疑問を解決する。

②授業の流れ

仙台南法人会の方々を講師として招き，税金の種類等の基本的な税金の知識について学習した。その後，DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴することで，世の中から税金が無くなってしまおうとどうなるのか，なぜ税金が必要なのかを考えさせた。後半，時間が無くなってしまい，児童が考えた質問を，講師の方に伺うことはできなかつたが，講師の方の分かりやすい話と税金を題材としたDVDアニメで，児童の税金への理解を深めることができた。



(4) 児童の実態：事後調査（平成30年度 6年1組 14名 2月実施）

1 税金税にはどんな種類がありますか。知っている税の名前を書きましょう。

- ・消費税（13人） ・所得税（13人） ・法人税（9人） ・自動車税（4人）
- ・固定資産税（4人）・市町村税（3人） ・入湯税（1人）

2 税金は、どのようなことに使われていますか。

- ・学校（教育）（10人）
- ・道路整備（信号機設置など）（8人）
- ・公共施設の建設（4人）
- ・国の施設，消防の仕事，警察の仕事，公務員の給料，病院，災害復興

3 税金は必要だと思いますか。そう思う理由も書きましょう。

（ はい 14名 どちらともいえない 0名 不要 0名 ）

（主な理由）＜必要＞ 税金がないと・・・

＜事前調査＞

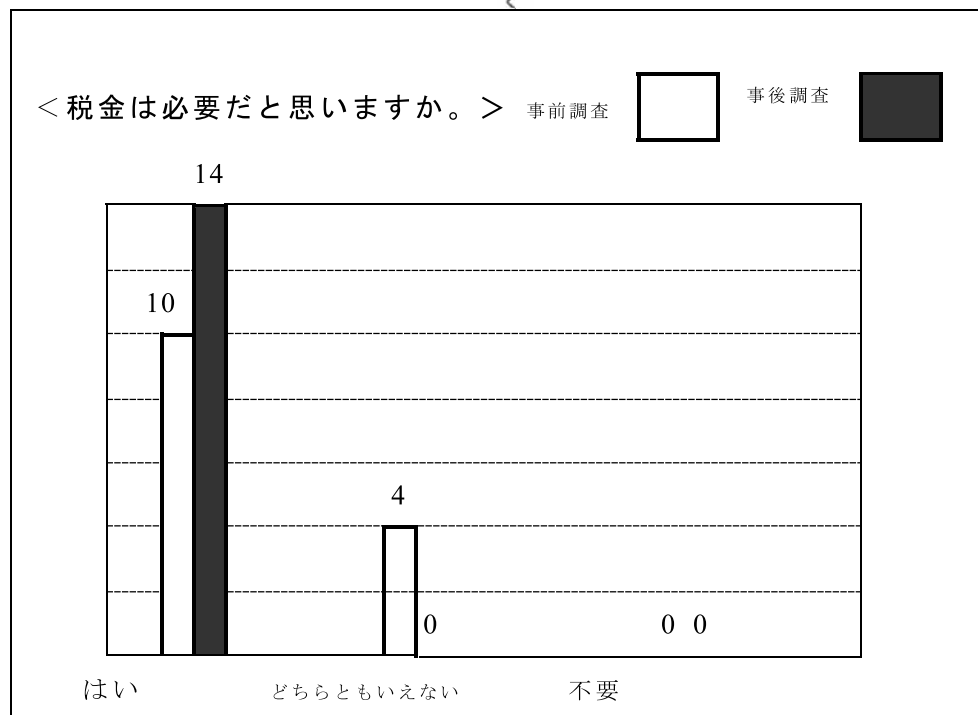
・国や県が困る。・建物が建たない。

＜事後調査＞

・人々の生活が不便になる。（7人）

- ・国の収入が安定しない。
- ・働いている人の給料がなくなる。
- ・いろいろな仕事ができなくなる。等

- ・ゴミだらけになる。（２人）
- ・警察や消防の仕事が有料になる。
- ・みんなが健康に生活できない。



4 税金について、考えていること、感じていることを書きましょう。

- ・税金がないと生活が大変になる。
- ・税金は大切だ。
- ・身近な物に税金が使われていることが分かったので物を大切にしたい。
- ・納税するのが、少し損をしているような感じだけど、その分、いろいろ税金でまかなわれているから税金は必要。
- ・税金は払わなければならない大切なものなので、ちゃんと払おうと思った。
- ・他にどんな税金があるか調べたい。
- ・消費税は何%まで上がるのか。

【実態調査の考察】

「税金の種類」としては、事前調査で挙げられていた「消費税」，「所得税」の他に，「法人税」，「自動車税」，「固定資産税」，「市町村税」，「入湯税」など，新たな種類の税金が挙げられるようになった。

「税金の使われ方」に関しては、公共のために使われているという漠然とした理解から、学校、道路整備、公共施設の建設、国の施設、消防の仕事、警察の仕事、公務員の給料、病院、災害復興など、より具な理解になったようである。

「税金の必要性」については、「14名が必要」という結果であった。「必要な理由」としては、「税金がなくなると公共サービス・事業ができなくなり、人々の生活が不便になる」というものであった。租税教室で視聴したDVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」の、「世の中から税金が無くなってしまうとどうなるのか」という内容が、子供達の印象に残ったことが考えられる。

「税金について考えていること、感じていること」の質問については、「難しくて分からない」という回答が無くなり、税金の必要性を述べる回答が多くなった。

以上の事後の実態調査の結果から、今回の租税教育を通して、税の意義や役割への理解をある程度、深めることができたと考えられる。

8 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・事前に税金に関する児童の実態調査を行い、児童の税に対する理解がどの程度かを把握することで、児童の実態に応じた指導計画を立てることができた。
- ・児童が、自ら税金についての課題を考え、調べ、ノートにまとめる活動を行うことで、意欲的に学習に取り組ませることができた。
- ・児童一人一人が調べた内容を、学級全体や少人数のグループで、お互いに発表して、共有する指導過程を設定することにより、児童の税に関する理解を深めることができた。
- ・事後の税金に関する児童の実態調査では、「税金は必要だと思いますか。」の質問に対して、学級の14名全員が「必要である」と回答した。今回の、租税教育を通して、児童の税金の意義や役割への理解を深めることができたと考える。

- ・社会科年間指導計画の見直しと租税教育の単元構成や指導過程の工夫を行うことで、指導時数を社会科や他の教科で、大幅に増やすことなく、租税教育を行うことができた。

(2) 課題

- ・児童が税金に関して調べる活動を行う際の資料を、十分に準備することができなかった。その結果、児童が調べて、発表する内容が類似した内容になってしまい、税金に関する意義や役割への理解は深めることはできたが、税に関する知識についての広がりをもたせるまでには至らなかった。
- ・租税教室では、前時で児童が考えた質問を、講師の方に伺う予定であったが、時間が無くなってしまい、質問ができなかった。租税教室当日の指導過程についても、講師の方と十分な打合せをする必要があると感じた。